ホッケー部門競技要項（ファーストディビジョン）

１．参加資格

 日本学生氷上競技連盟加盟校のうち、地区ごとに定められた枠数により出場権を得た各地区の代表１４校と前大会ベスト１６進出の１６校、開催地域枠、全大会セカンドディビジョン優勝校の所属する地域計３２校。

 北海道２、東北３（地域枠２+前大会セカンドディビジョン優勝校所属枠）、北信越１、関東２、中部１、関西３、中四国１、九州２、及び昨年度ベスト１６進出校(関東地区１３、関西地区２)、開催地域枠１、計３２校。

２．出場制限

(１)ベンチ入りする選手は、ゴールキーパー最小１名、最大２名。プレイヤー最小１０名、最大２０名とし、ゴールキーパー１名を含み総勢１１名未満のチームは出場資格を持たない。

(２)試合に際して、登録された責任者(チームを管理するスタッフ：監督、コーチ等)が不在の場合は、試合放棄と見なしその試合は没収される。ベンチ入りスタッフは最小１名、最大６名とする。スタッフとは監督・コーチとして(公財)日本アイスホッケー連盟に登録されている者とする。

(３)外国籍学生の出場は１校につき２名以内とする。

(４)学生ドアマンについては、本大会登録選手・マネージャーが２名以内でベンチ入りすることができる。その際には必ずフルフェイスマスクのついたヘルメットを着用しなければならない。

３．競技方法

(１)上記３２校によるトーナメント戦により１位～５位を決定する。

(２)試合は正味２０分×３ピリオドで行なう。インターバルは、１０分とする。

 タイムアウト(３０秒)は全試合、各チーム１回使用できるものとする。

(３)第３ピリオド終了時点において同点の場合、下記の方法で勝敗を決定する。

①１回戦より準々決勝戦においては、国際アイスホッケー連盟スポーツ規定に定められる「ゲーム・ウイニング・ショット」(ＧＷＳ)の方式に従うが、５名ではなく３名による「ゲーム・ウイニング・ショット」により勝敗を決定する。この場合３名のノミネートは不要で、リンクサイドは片面だけを使う。なお、３名で決着がつかない場合はタイ・ブレイク方式(サドン・ビクトリー)で行い、タイ・ブレイクへ入ったら、同じ選手が何回続けてショットしても良い。なお、３名で決着がつかない場合はタイ・ブレイク方式(サドン・ビクトリー)で行い、タイ・ブレイクへ入ったら、同じ選手が何回続けてショットしても良い。

②準決勝戦、３位決定戦及び決勝戦は、第３ピリオド終了直ちに５分間のスケーター３対３によるサドン・ビクトリー方式の延長戦により勝敗を決定する。なお、延長戦のサイドは第３ピリオドと反対とする。延長戦でも決しない場合は、上記①による「ゲーム・ウイニング・ショット」(ＧＷＳ)により勝敗を決定する。

(４)練習時間は、１・２回戦は７分間、準々決勝以降は１０分間。

(５)日本アイスホッケー連盟、主管連盟及び大会事務局の定めるローカルルール以外は、2018年に改定された国際アイスホッケー連盟の定める国際競技規則及び同スポーツ規定による。

４．シード

(１)前大会ベスト１６進出校がシードされる。

(２)ベスト４校は、順位により定められた位置にシードされる。

(３)５位４校のシード位置は、昨年度大会期間中に抽選によって決定済みである。

(４)前大会ベスト１６進出校は、春季代表委員会において、抽選によって決定済みである。

５．得 点

 ベスト８進出校に得点を与える。１位８点、２位７点、３位６点、４位５点、５位(４校)は２．５点ずつとする。

６．表 彰

(１)優勝校には優勝杯を授与し、１～３位に賞状を授与する。

(２)全参加者のうち、１名に最優秀選手【ＭＶＰ】賞を授与する。

(３)ベスト４進出校のうち準々決勝戦からのポイントを計算し、【得点王】賞及び【アシスト王】賞を授与する。

(４)ポジションごと（FW3名、DF２名、GK１名）に優秀選手を選出し、【ベスト６】賞を授与する。

７. そ の 他

 本年度大会において確定した５位４校については、大会期間中に抽選により次年度大会のシード位置を決定する(詳細については、監督主将会議で発表する。

※各地区予選に関してもこの要項に準じて行うものとする。

８．注意事項

＊大会中の事故等については、応急措置のみとし、当連盟は責任は負わない。

＊参加者はスポーツ傷害保険等に必ず加入していること。

＊本大会で当連盟が取得した個人情報等（氏名・生年月日、競技成績等）は、大会運営・広報のみに利用する。ただし、当連盟が許可したメディアに掲載される場合がある。

＊大会時に撮影された写真・映像が、本連盟が作成するウェブサイト、パンフレット、広報物等に使用される場合がある。また、大会時に撮影された写真・映像が、当連盟が許可する団体が製作する出版物、ウェブサイトに掲載、もしくはインターネット等で配信される場合がある。上記を拒否する場合には、必ず当連盟に事前に届け出なければならない。

ホッケー部門競技要項（セカンドディビジョン）

１．参加資格

 日本学生氷上競技連盟加盟校のうち、各地区の最終予選において出場権を得ることのできなかったチームの中で、予選会において最も上位の成績を収めたチーム8校（北海道１、東北１、北信越１、関東１、中部１、関西１、中四国１、九州１）

２．出場制限

(１)ベンチ入りする選手は、ゴールキーパー最小１名、最大２名。プレイヤー最小１０名、最大２０名とし、ゴールキーパー１名を含み総勢１１名未満のチームは出場資格を持たない。

(２)試合に際して、登録された責任者(チームを管理するスタッフ：監督、コーチ等)が不在の場合は、試合放棄と見なしその試合は没収される。ベンチ入りスタッフは最小１名、最大６名とする。スタッフとは監督・コーチとして(公財)日本アイスホッケー連盟に登録されている者とする。

(３)外国籍学生の出場は１校につき２名以内とする。

(４)学生ドアマンについては、本大会登録選手・マネージャーが２名以内でベンチ入りすることができる。

その際には必ずフルフェイスマスクのついたヘルメットを着用しなければならない。

３．競技方法

(１)上記８校によるトーナメント戦により１位～３位を決定する。

(２)試合は正味２０分×３ピリオドで行なう。インターバルは、１０分とする。

 タイムアウト(３０秒)は全試合、各チーム１回使用できるものとする。

(３)第３ピリオド終了時点において同点の場合、国際アイスホッケー連盟スポーツ規定に定められる「ゲーム・ウイニング・ショット」(ＧＷＳ)の方式に従うが、５名ではなく３名による「ゲーム・ウイニング・ショット」により勝敗を決定する。この場合３名のノミネートは不要で、リンクサイドは片面だけを使う。なお、３名で決着がつかない場合はタイ・ブレイク方式(サドン・ビクトリー)で行い、タイ・ブレイクへ入ったら、同じ選手が何回続けてショットしても良い。

(４)練習時間は、1、２回戦は７分間、決勝戦は１０分間。

(５)日本アイスホッケー連盟、主管連盟及び大会事務局の定めるローカルルール以外は、2018年に改定された国際アイスホッケー連盟の定める国際競技規則及び同スポーツ規定による。

４．秋季代表者会議において各地区のトーナメントの位置を抽選で決定する

５．１～３位に賞状を授与する。

　優勝したチームの所属する地区には、次年度の参加チーム１枠を増加する。

※各地区予選に関してもこの要項に準じて行うものとする。

６．注意事項

＊大会中の事故等については、応急措置のみとし、当連盟は責任は負わない。

＊参加者はスポーツ傷害保険等に必ず加入していること。

＊本大会で当連盟が取得した個人情報等（氏名・生年月日、競技成績等）は、大会運営・広報のみに利用する。ただし、当連盟が許可したメディアに掲載される場合がある。

＊大会時に撮影された写真・映像が、本連盟が作成するウェブサイト、パンフレット、広報物等に使用される場合がある。また、大会時に撮影された写真・映像が、当連盟が許可する団体が製作する出版物、ウェブサイトに掲載、もしくはインターネット等で配信される場合がある。上記を拒否する場合には、必ず当連盟に事前に届け出なければならない。

ホッケー部門(女子)競技要項

１．参加資格

 　日本学生氷上競技連盟加盟校5校のうち、出場の意思を表明した3校（帯広畜産大学、都留文科大学、日本体育大学）。

２．出場制限

(１)ベンチ入りの選手は、ゴールキーパー最小1名、最大2名。プレイヤー最小10名、最大20名とし、ゴールキーパー1名を含み総勢11名未満のチームは出場資格を持たない。

(２)試合に際して、登録された責任者(チームを管理するスタッフ：監督、コーチ等)が不在の場合は、試合放棄と見なしその試合は没収される。ベンチ入りスタッフは最小１名、最大６名とする。スタッフとは監督・コーチとして(公財)日本アイスホッケー連盟に登録されている者とする。

(３)外国籍学生の出場は1校につき2名以内とする。

(４)学生ドアマンについては、本大会登録選手・マネージャー2名以内がベンチ入りすることができる。ベンチ入りの際には、必ずフルフェイスマスクのついたヘルメットを着用しなければならない。

３．競技方法

(１)上記3校によるリーグ戦により1位～3位を決定する。４校参加の場合は４校によるトーナメント方式

(２)試合は正味20分×3ピリオドで行なう。インターバルは10分とする。

 タイムアウト(30秒)は全試合、各チーム1回使用できるものとする。

(３)第3ピリオド終了時点において同点の場合は引分けとする。

(４)練習時間は、7分間とする。

（５)日本アイスホッケー連盟、主管連盟及び大会事務局の定めるローカルルール以外は、2018年に改定された国際アイスホッケー連盟の定める国際競技規則及び同スポーツ規定による。

 ４．順位の決定方法

リーグ戦において勝利したチームに勝点２を、引分けの場合には両チームに勝ち点1を与え、総勝点数によって順位を決定する。なお、総勝点数が同じ場合には、別に定める方法によって順位を決定する。

５．大学対抗得点

　オープン競技とし、大学対抗の得点は付与しない。

６．表 彰

1 ～3 位に賞状を授与する。

７．大会参加料

　無料。なお、各チームに対し昨年支払われた遠征助成金は支給しない。

８．そ の 他

 今後大学対抗得点を付与する正式種目となった場合でも、大会の記録は第90回記念大会から通算するものとする。

９．注意事項

＊大会中の事故等については、応急措置のみとし、当連盟は責任は負わない。

＊参加者はスポーツ傷害保険等に必ず加入していること。

＊本大会で当連盟が取得した個人情報等（氏名・生年月日、競技成績等）は、大会運営・広報のみに利用する。ただし、当連盟が許可したメディアに掲載される場合がある。

＊大会時に撮影された写真・映像が、本連盟が作成するウェブサイト、パンフレット、広報物等に使用される場合がある。また、大会時に撮影された写真・映像が、当連盟が許可する団体が製作する出版物、ウェブサイトに掲載、もしくはインターネット等で配信される場合がある。上記を拒否する場合には、必ず当連盟に事前に届け出なければならない。

**第９１回日本学生氷上競技選手権大会**

**フィギュア部門要項**

1. 参加資格

（１）男子シングル

・７，８級クラス男子　　　（公財）日本スケート連盟バッジテスト７・８級

・５，６級クラス男子　　　（公財）日本スケート連盟バッジテスト５・６級

・３，４級クラス男子　　　（公財）日本スケート連盟バッジテスト３・４級

（２）女子シングル

・７，８級クラス女子　　　（公財）日本スケート連盟バッジテスト７・８級

・６級クラス女子　　（公財）日本スケート連盟バッジテスト６級

・５級クラス女子　　（公財）日本スケート連盟バッジテスト５級

・４級クラス女子　　（公財）日本スケート連盟バッジテスト４級

・３級クラス女子　　（公財）日本スケート連盟バッジテスト３級

※３，４級クラス男子、３級クラス女子にバッジテスト３級エレメンツ２課題残しで出場される方は証明書として（公財）日本スケート連盟マイページの課題のスクリーンショットを fugure@jacsif.jp に送ってください。

※「３級エレメンツ２課題残し」とは、３級のバッジテストでステップ、フリーを取得し、かつエレメンツの２課題（その２課題は、任意のダブル・ジャンプ／任意のダブル・ジャンプを含むコンビネーションとする）残しである状態を指す。

（３）アイスダンス

・選手権クラス 該当シーズンにおいて(公財)日本スケート連盟主催のシニア選手権大会への出場資格を有するカップル

・準選手権クラス カップルのいずれかがブロンズ以上。ただし、選手権クラス出場資格を持つカップルは該当シーズンにおいて、（公財）日本スケート連盟のシニア選手権大会に出場していない場合のみ、準選手権クラスへの参加を認める。

※上記の級は、予選がある競技に関しては選考競技会申し込み締め切りまでに取得のこと。

1. 出場制限

（１）７，８級クラス男子・７，８級クラス女子

男女ともに、東西選考競技会上位大学より計３６名。ただし、１校男女各３名を上限とし、前年度上位３校はシード校として１名分の出場枠を持つこととする(補欠の人数は問わない)

（２）５，６級クラス男子・６級クラス女子

男女ともに、東西選考競技会上位大学より計２８名。ただし、１校男女２名を上限とする(補欠の人数は問わない)

 （３）５級クラス女子

東西選考競技会上位大学より計２０名。ただし、１校男女２名を上限とする(補欠の人数は問わない)

（４）３，４級クラス男子・４級クラス女

 男女ともに、東西選考競技会上位大学より計１６名

ただし、１校男女２名を上限とする(補欠の人数は問わない)

（５）３級クラス女子

東西選考競技会上位大学より計１２名。ただし、１校男女２名を上限とする(補欠の人数は問わない)

（６）アイスダンス

 規制は特に設けない

※外国籍学生の出場は１校につき各クラスそれぞれ１名以内とする。

※上記の級は選考競技会申し込み締め切りまでに取得のこと。

※抽選会以降は補欠選手への交代は認められない。

1. 競技課題

（１）男子７，８級クラス及び女子７，８級クラス

 ＳＰ　ＩＳＵシニア課題 ２分５０秒以内

ＦＳ　ＩＳＵシニア課題 　 ４分

（２）男子５，６級クラス及び女子６級クラス

ＦＳ　ＩＳＵジュニア課題 ３分３０秒

　　（３）女子5級クラス

　　　　（公財）日本スケート連盟　ノービスA課題　 　３分

（４）男子３，４級クラス及び４級・３級クラス女子

（公財）日本スケート連盟　ノービスＢ課題 ２分３０秒

４．採点方式

ＩＳＵジャッジングシステム

５．得点方法

（１）各クラスそれぞれ出場人数の逆転法によって、学校得点を決定する。

（２）学校対抗は、上位３名の合計得点により順位を決定する。

（３）７，８級クラス男子／７・８級クラス女子２５位以下については、Ｓ．Ｐ．の結果をあてる。

（４）同点の場合は、上位入賞者による。

（５）３部門総合の学校対抗については、７，８級クラスの結果をあてる。

（６）アイスダンスは学校対抗の対象としない。

６．表　　彰

（１）個人：フィギュア会場にて、男女各クラス各８位まで賞状を授与する。

（２）アイスダンス：フィギュア会場にて、各クラス上位３位まで賞状を授与する。

（３）団体：フィギュア会場にて、男女各クラスそれぞれ３位までの学校に賞状を授

与する。

７．注意事項

＊大会中の事故等については、応急措置のみとし、当連盟は責任は負わない。

＊参加者はスポーツ傷害保険等に必ず加入していること。

＊本大会で当連盟が取得した個人情報等（氏名・生年月日、競技成績等）は、大会運営・広報のみに利用する。ただし、当連盟が許可したメディアに掲載される場合がある。

＊大会時に撮影された写真・映像が、本連盟が作成するウェブサイト、パンフレット、広報物等に使用される場合がある。また、大会時に撮影された写真・映像が、当連盟が許可する団体が製作する出版物、ウェブサイトに掲載、もしくはインターネット等で配信される場合がある。上記を拒否する場合には、必ず当連盟に事前に届け出なければならない。

|  |
| --- |
| **スピード部門競技要項　（案）** |
| 2018年10月2日 |
| **１．競技距離** |
| 女子 | 個人競技団体競技 | 500ｍ　1000ｍ　1500ｍ　3000ｍ2000ｍリレー　チームパシュートレース(６周) |
| 　男子 | 個人競技団体競技 | 500ｍ　1000ｍ　1500ｍ　5000ｍ　10000ｍ2000ｍリレー　チームパシュートレース(８周) |
|  |
| **２．日程** |
| 　2019年1月4日(金)　　公式練習　　　　　　　9:00-12:00、14:00‐16:00　　監督主将会議及び抽選　17:002019年1月5日(土) |
| 公式練習　　競技開始　　公式練習 | 8:00-8:40、8:55-9:35、女子500ｍ終了後30分間（男子10000ｍ出場者のみ）10:00　①男子500ｍ　②女子500ｍ　③男子1500ｍ　④女子1500ｍ　⑤男子10000ｍ女子500ｍ終了後30分間 |
| 　2019年1月6日(日) |
| 　　公式練習競技開始　　公式練習 | 8:00-8:40、8:55-9:35　　女子3000ｍ終了後30分間（男女1000ｍ出場者のみ）10:00　①女子3000ｍ　②男子5000ｍ　③女子1000ｍ　④男子1000ｍ競技終了後30分後に開始（リレー種目及びチームパシュート種目、個人練習で組分を行う。組分けは後日発表することとする。） |
| 　2019年1月7日(月) |
| 公式練習競技開始 | 8:00-9:35（リレー種目及びチームパシュート種目で組分けを行う。組分けは後日発表することとする。）10:00　①女子2000ｍリレー　②男子2000ｍリレー③女子チームパシュートレース　④男子チームパシュートレース |
|  |
| **３．競技方法**(１) 国際スケート連盟スピードスケート競技規則（以下、「ＩＳＵ規則」という。）、(公財)日本スケート連盟スピードスケート競技規則並びに本要項による距離別競技とする。(２) 女子、男子とも各距離の得点合計による学校対抗とする。この場合、合計得点が同じときは上位者の多い学校を上位とする。更に同点の場合は同順位とする。　(３) 各距離の得点は次のとおりとし同順位は得点を案分する。この場合、小数第２位以下を切り捨てるものとする。　　　個人競技女子　　１位17点、２位15点、３位13点、４位11点、５位９点、６位７点、７位６点、８位５点、９位４点、10位３点、11位２点、12位１点男子　　1位20点、2位18点、3位16点、4位14点、5位12点、6位10点、7位9点、8位8点、9位7点、10位6点、11位5点、12位4点、13位3点、14位2点、15位1点　　　団体競技女子　　１位14点、２位11点、３位８点、４位６点、５位４点、６位２点男子　　１位18点、２位15点、３位12点、４位10点、５位８点、６位６点、７位４点、８位２点(４) トラックは標準400ｍダブルトラックＣタイプとする。ただし、チームパシュートレースにあっては　　標準シングルトラックＣタイプとする。(５) 1500ｍ以上の距離にあってはカルテットスタート競技方法を採用することができる。この場合、採用の有無は監督主将会議で決定する。　(６) 組合せ手順及びスタート順　　　ア) 個人競技ａ) 各距離の組合せ及びスタート順は、当該距離の最新の本年度タイム（(公財)日本スケート連盟が公表したカルガリー又はソルトレークシティーで樹立したものを除く）による。この場合、ＩＳＵ規則239条２項を準用する。ｂ) ランキングの編成① 各距離とも、当該距離の本年度タイムに従ってエントリーされた者を次のように順位づける。この場合、本年度タイムが同じ者は抽選により上位者を決定する。② 本年度タイムのない者は、抽選により順位づけ①に続く。ｃ) 組合せは、前記ｂ)の上位から２名ずつ組み合わせるものとし、スタートレーンは上位者をインレーンとする。ただし、同一校が同一組とならないようスタートレーンを変えず組を調整する。ｄ) 組のスタート順は前記ｃ)の下位からとする。 e) 抽選後の棄権に伴う組の調整は、当該競技開始１時間前までの場合はＩＳＵ規則第245条４項を適用して残っている者のランキングに基づいて再編成する。それ以後の変更は同第245条３項を適用する。f) 最終順位はＩＳＵ規則第265条、第268条及び第275条を適用する。イ) 団体競技　　　　　ａ) 第３日目競技終了時点の学校対抗得点合計に基づき上位から組み合わせる。この場合、学校得点合計が同じときは上位者の多い大学を上位とする。さらに同点の場合は抽選とする。ｂ) スタート順は得点順とは逆に下位の組からスタートし、最上位の組が最後に滑走する。ｃ) スタートレーンは、チームパシュートレースにあっては学校対抗得点合計の上位校をフィニッシュサイドとし、リレー競技にあっては抽選とする。ｄ) 抽選後の棄権に伴う組の調整は、当該競技開始１時間前までの場合はＩＳＵ規則第245条４項を適用して残っている者のランキングに基づいて再編成する。それ以後の変更は同第245条３項を適用する。　　　　　ｆ) 最終順位はＩＳＵ規則第265条、268条及び第275条を適用する。 |
|  |
| **４．表 彰**(１) 女子、男子とも学校対抗１位の大学に優勝杯及び賞状を、２位及び３位の大学に賞状を授与する。(２) 各距離とも、個人競技にあっては１位から８位までの者に、団体競技にあっては１位から３位までの大学に賞状を授与する。 |
|  |
| **５．参加資格**　本年度本連盟登録者であって、(公財)日本スケート連盟バッジテストＣ級（スピード、ショートトラックを問わない）以上を有する者 |
|  |
| **６．出場制限**(１) 各距離の出場人員を次のとおり制限する。　　　　個人競技　１校１距離　３名以内　補欠１名以内　　　　　　　　　　・１名２距離以内とし、補欠を含め２距離に参加申込した者は他の距離の補欠となることはできない。ただし、リレー競技及びチームパシュートレースは除く。　　　　　　　　　　・男子10000ｍにあっては、本年度又は前年度に次のタイム（カルガリー又はソルトレークシティーで樹立したものを除く）以上を有する者男子5000ｍ　7分45秒　又は　男子10000ｍ　16分14秒　　　　団体競技　　　　　リレー競技　１チーム６名以内の編成とし出場は４名とする。　　　　　チームパシュートレース　１チーム５名以内の編成とし出場は３名とする。(２) 外国籍学生の出場は１校につき１名以内とする。 |
| **７．距離別エントリー**（提出可能な者は2018年12月5日（水）までに大会参加申し込みを完了している者に限る。）(１)提出期限　2019年1月2日（水）正午(２)提出先　（一社）日本学生氷上競技連盟メールアドレス：speed@jacsif.jp（別紙フォーム使用のこと） |
|  |
| **８、その他**　(１) 本競技会中(６．の全日程中)の事故等については応急処置のみとし責任は負わない。(２) 本競技会への参加に際してはスポーツ傷害保険等に必ず加入していること。(３) 大会時に撮影された写真・映像が、本連盟が作成するウェブサイト、パンフレット、広報物等に使用される場合がある。また、大会時に撮影された写真・映像が、当連盟が許可する団体が製作する出版物、ウェブサイトに掲載、もしくはインターネット等で配信・中継される場合がある。上記を拒否する場合には、必ず当連盟に事前に届け出なければならない。 |